

## 資料「エビの生産に関する資料」

### 1 日本人はエビ好き？

- ・ 脱皮する習性から「生命・体を清めるめでたいもの」。また鎧兜（よろいかぶと）を思わせる立派な姿勢をもち、或いは長いひげ、曲がった腰の老人を連想させ、長寿の相を持つ海の翁としての意味を持つこと、目が飛び出ている「めでたい」こと、また加熱するとエビ色（赤褐色）に変わり、見た目にも美しく華やかである。
- ・ 骨がない → たべやすい
- ・ おいしい、高タンパク、低脂肪、低カロリー

日本人は、一人あたり1年間に約 2.3kg のエビを食べている。世界一多い。クルマエビで 70 尾ほど。(2003 年)

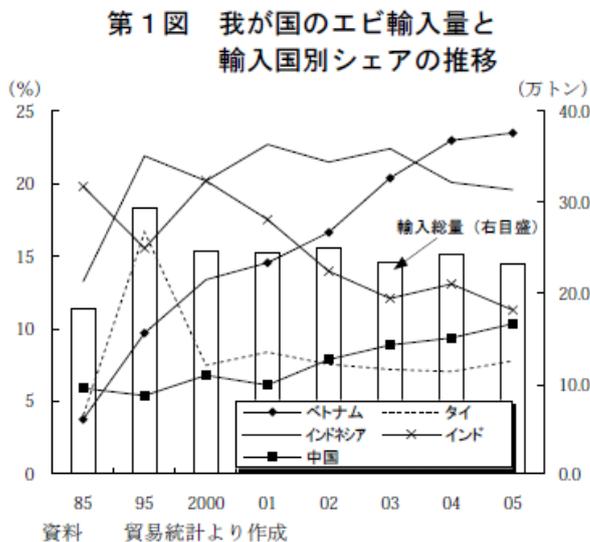
しかし、日本人はもともと、たくさんのエビを食べていたわけではない。エビの消費量は 1960 年には約 6 万トン、一人あたり約 0.7kg であった。(「エビと日本人」村井吉敬、岩波新書)



ブラック・タイガー  
輸入されるエビの  
半分近くは、ぼくだよ。

市場魚介類図鑑より引用

(<http://www.zukan-bouz.com/ebi/kurumaebi/yunyu/black.html>)



(株)農林中金総合研究所「調査と情報」2006年5月号より引用

<http://www.nochuri.co.jp/report/pdf/r0605in2.pdf>

## 2 エビはどこからくるの？

- ・ 約 10%は日本でとれる。
- ・ 約 90%は輸入される（冷凍エビ）。

1位：ベトナム (22,15)

2位：インドネシア(18,13)

3位：インド(10,7)

4位：中国(9,6)

5位：タイ(7,5)

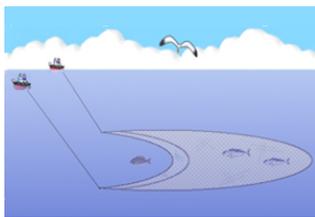
その他(24,17)

日本(10,7)

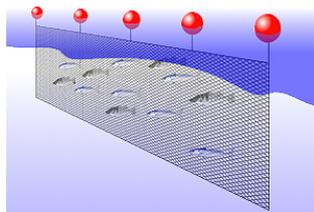
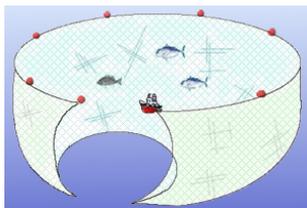
数字は (%、70尾の内の尾数)

## 3 エビの捕り方、育て方

### (1) 天然エビを海でとる。



底引き網（他の海洋生物を混獲することなど、海洋環境の悪影響が懸念されており、一部の公海などでの規制が検討されている。）



巻き網や刺し網に移行してきている。

図は、佐世保魚市場/漁法の紹介より引用  
(<http://www.sasebo-uoichiba.co.jp/gyohou/gyohou.htm>)

天然エビは、資源の管理が難しく、枯渇の心配がある。

### (2) 養殖する（準集約養殖、集約養殖）。

○ マングローブ林、田んぼや畑を養殖池に転換する。

- ・ 餌をやる。
- ・ 酸素を送り込む。
- ・ 病気で全滅することもあるので、化学薬品（除草剤、抗生物質、栄養剤など）

を使う。



ヤエヤマヒルギ (マングローブの一種)  
国際マングローブ生態系協会 HP より引用  
<http://www.kaiyo-net.com/mangrove/>



エビ養殖場の増加 (ホンジュラス 1987-1999)  
Wikipedia 「shrimp farm」より引用  
[http://en.wikipedia.org/wiki/Shrimp\\_farm](http://en.wikipedia.org/wiki/Shrimp_farm)

- 5～10年で使えなくなる。  
(焼き畑式、ヒット・エンド・ラン型などと呼ばれる)
  - ・ 塩水のせいで、畑や田んぼに戻せない。
  - ・ 薬や汚泥などのせいで、マングローブ林にも戻せない。
- その他
  - ・ 1 m<sup>2</sup>あたりエビは20～30尾。
  - ・ マングローブ林 (海のゆりかごの消失) 等の消失
    - 生物 (魚、エビ・カニ、鳥など) の減少。
    - 沿岸漁業の衰退
    - 薪の供給源となる林の減少
    - 津波などからの保護機能の低下

(3) 養殖する (伝統的粗放養殖: インドネシアの例)。

- かつて、マングローブ林を塩田などにしていたが、塩田が減少し、魚 (ミルクフィッシュ) などの養殖池となった。エビも一緒に養殖されていたがエビの需要が増えるに従って、エビの割合が増加した。
  - ・ 継続的に使える。
  - ・ 餌や化学薬品がいない。

- ・ 生産性は低い。  
(1 m<sup>2</sup>あたりエビは1~3尾)。
- 循環型の養殖池となっている
  - ・ 池の水を抜いて、ガンガンという藻を集めて乾燥、発酵させる。エビはガンガンを食べない。頭が絡んで動けなくなり死んでしまう。
  - ・ 池に水を入れると、ガンガンを餌にしてプランクトンが発生する。このプランクトンがエビの餌になる。4~5ヶ月で成長する。

<参考資料>

「アジアのエビ養殖と貿易」 多屋勝雄編著 成山道書店

「エビと日本人」 村井吉敬著 岩波新書

「オルタ・トレード・ジャパン」HP <http://www.altertrade.co.jp/>

「Wikipedia」HP [http://en.wikipedia.org/wiki/Shrimp\\_farm](http://en.wikipedia.org/wiki/Shrimp_farm)